

石川県漁業調査指導船

白山丸





石川県漁業調査指導船「白山丸」の竣工にあたって

石川県は、日本海に大きく突き出た能登半島を有し、その沿岸・沖合海域は広大な岩礁地帯と大陸棚、天然礁に恵まれていることから、数多くの漁場において、多様な漁業が営まれている水産県であります。

今日の漁業環境は、国連海洋法条約に基づくTACの設定、漁業経済水域200海里の全面適用等大きな課題が山積しております。

このような状況のなか、21世紀の日本海と石川県漁業を見据えた水産総合センターの機動力であり、海の研究室としての「白山丸」の竣工を見ることができ、慶びに堪えません。

「白山丸」は観測機器をハイテク化し、最新漁労機器等を装備しており、本県沖合のみならず日本海全域の我が国200海里水域内漁場における漁業情報等のデータを収集・解析し、資源生態の解明等を積極的に進めるなど、本県漁業の再構築と発展に寄与するものと確信いたしております。

今後「白山丸」の調査・運航にあたり、関係機関、各位のご協力、ご支援をお願いする次第であります。

平成8年6月

石川県知事 谷本正憲



白山丸のあらまし

○起工年月日	平成8年1月31日
○進水年月日	平成8年4月30日
○竣工年月日	平成8年6月28日
○全長	41.52 m
○長さ(登録長)	35.30 m
○幅	7.20 m
○深さ	3.05 m
○計画満載吃水(型)	2.745 m
○資格	第3種漁船
○総トン数	167トン
○試運転最大速度	14.33ノット
○航海速度	12.5 ノット
○航続距離	4,200海里以上
○定員	20名
乗組員	14名
調査員	4名
研修員	2名
○燃料油槽容積	93.47 m ³
○魚倉容積	20.14 m ³
○清水槽容積	19.17 m ³
○雑用水槽容積	13.39 m ³
○船舶番号	134422
○信号符字	JJHN
○造船所	三菱重工業(株)下関造船所
○設計・監督	坂本設計研究所

主要設備要目

●航海計器

第1レーダ	1台	日本無線
JMA-8513-9CA 9フット、50kW、3cm波、ARPA付き		
第2レーダ	1台	日本無線
JMA-3728-9 9フット、25kW、3cm波		
総合航法装置	1台	日本無線
SNA-200		
ロランC航法装置	1台	日本無線
JNA-757		
GPS航法装置		
JLR-6800	2台	日本無線
GPR-016	1台	古野電気
遠隔表示器	1台	日本無線
NWZ-230		
電磁ログ	1台	横河電子機器
EML-500-HV1		
ジャイロコンパス及びオートパイロット	1台	(株)トキメック
ES-120、PR-2264-HSP-W13		
拡声装置	1台	日本船用
OHE-3177 100W		
音響信号装置	1台	伊吹
旋回窓	3基	布谷
径350mm		
風向風速計	1台	日本エレクトリック・インスルメント
N-162D、表示器MM-30 2台		
磁気コンパス	1台	(株)トキメック
SH-165A		
気象ファクシミリ	1台	日本無線
JAX-90		
探照灯	1台	三信船舶
EX-5045H2 4.5kWキセノンランプリモコン式		
アナログ水温計	1台	村山電機
MKN-21A -2~+36℃		
デジタル水温計	1台	村山電機
DSN-1001(海図室)、DM-6001S(モニター、無線室)		

●調査観測機器

測深機	1台	鶴見精機
TS-2PN(B-1) 電動油圧 150kg×82m/min		
ワイヤー3mmφ×2000m		
CTD	1台	シーバード社
SBE9plus 水深、水温、塩分、PH、DOセンサー、		
CTDウインチ 8000A、		
アーマードケーブル6.4mmφ×2000m		
マルチボトル採水器ニスキン型(1.7L×12本)付属		
超音波流向流速計	1台	RDインスルメント社
ドップラー 150kHz		
ボンゴネットウインチ	1台	川重ハイドロリック
電動油圧、500kg×50m/min ワイヤー6mmφ×500m		
漁網監視装置	1式	日本海洋(株)
RPX400 ハイドロホン船底固定式		
水深、網高、袖網センサー付き		
バイオテレメトリー装置	1台	カナダベコム社
VR-60、V-10型指向性ハイドロホン		
ピンガーV-16		
科学計量魚群探知機	1台	古野電気
FQ-70 50,200kHz		
超低温保存庫	1台	サンヨー
MDF-192AT-85℃ 86ℓ		

●漁労・甲板機械

記録式魚群探知機 28kHz/5kW、88kHz/5kW	1台	古野電気
カラー魚群探知機 107kHz/3kW VTR記録装置付き	1台	古野電気
ソナー CSH-81 全周型 81kHz	1台	古野電気
イカ釣機 MY-3DP	14台	東和電機製作所
集魚灯 メタルハライドランプ 3kW×78灯 安定器 FB32M 3kW(2灯用)×38個 FK30 3kW(1灯用)×2個		三信船舶
流網ネットホーラー H-Y21 400kg×207m/min	1台	泉井鉄工
ラインホーラー 底延縄用 TO 1.5t×70m/min 籠縄用 KS 3.5t×50m/min	各1台	大成機械
網捌き機(ボールワンダー) B-350型 0.4kW	1台	興洋
底曳きウインチ MK-44-09200 3t×100m/min	2台	川重ハイドロリック
袖網ウインチ 1.5t×30m/min	2台	川重ハイドロリック
ロープワインダ SH-2002-2 75kg×100m/min	1台	大成機械
位置情報電送システム	1台	太洋無線
位置情報機能付ラジオバイ	2台	太洋無線
カラープロッタ NWZ-300	1台	日本無線
セルコール・ラジオバイ	2台	大野電子
操舵機 HSP-W13-040 4.0t-m 2.2kW	2台	(株)トキメック
揚錨機 電動油圧式 2.5t×15m/min 左右一体型	1台	川重ハイドロリック
キャプスタン 電動油圧式 1.5t×15m/min	1台	川重ハイドロリック
ホイスト 電動 0.5t×1台(船首ブーム) 0.9t×2台(船尾ブーム)	3台	明電舎

●機関部

主機関 T240-ET2 1,300PS×780rpm	1台	ヤンマーディーゼル
発電機関 6LAAL-UTN 360PS×1,200rpm	2台	ヤンマーディーゼル
発電機 TWY35BS-6L 300kVA	2台	大洋電機
推進機 ハイスキュー型4翼可変ピッチプロペラ 径2,200mm	1基	かもめプロペラ
パウラスター TFA-20UA、推力2t、 4翼、径740mm、178PS×642rpm	1基	かもめプロペラ

機関監視装置 SMS-U200A 20インチCRT	1台	日本無線電機サービス社
冷凍機 8CC752 BE 22kW 21,900kcal/h 6CC752 CB 15kW 15,000kcal/h 凍結装置 フラットタンク式	2台	日新興業
給湯ボイラー HV-5 50,000kcal/h	1台	三浦工業
造水装置 JWP-16-C40 3t/day	1台	アルファ・ラバル

●通信装置

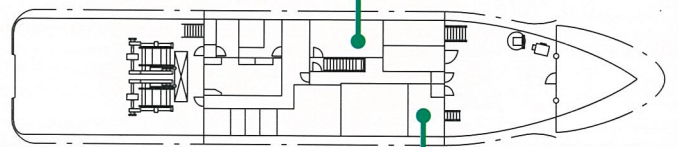
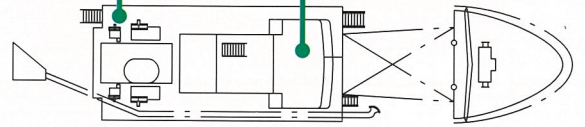
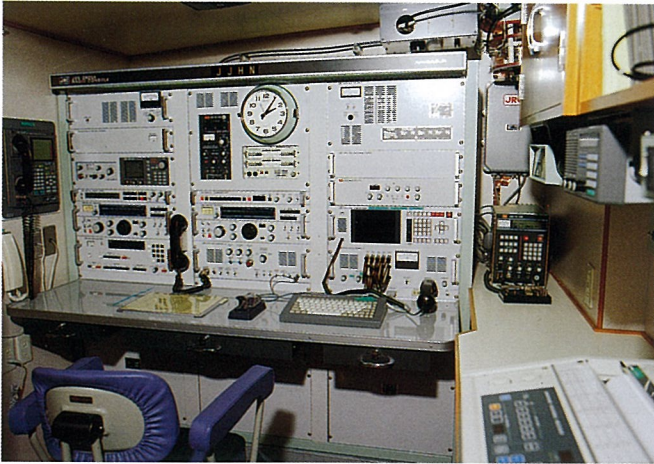
MF/HF無線通信装置 JSS-800 250W GMDSS対応型中短波無線機	1式	日本無線
国際VHF無線電話装置 JHS-32A 150MHz 25W GMDSS対応型	2台	日本無線
双方向無線電話装置 JHS-7 GMDSS対応型	1台	日本無線
ナビテックス受信機 NCR-300A 英文対応 GMDSS対応型 NCR-700A 日本語対応 GMDSS対応型	2台	日本無線
緊急自動受信機 JXA-8 GMDSS対応型	1台	日本無線
インマルサットC JUE-75A GMDSS対応型	1式	日本無線
レーダートランスポンダ JQX-20A GMDSS対応型	1台	日本無線
無線電信電話装置 NSD-58N MF/HF250W	1台	日本無線
MF/HF SSB無線装置 JSB-78 中短波 75W	1台	日本無線
HF SSB無線装置 JSB-28 27MHz 25W	1台	日本無線
第1 DSB無線装置 JSD-280A 27MHz 1W	1台	日本無線
第2 DSB無線装置 JHV-140A 40MHz 5W	1台	日本無線
第3 DSB無線装置 JHV-1152 150MHz 1W	1台	日本無線
全波受信機 NRD-93	2台	日本無線
船間セルコール OSD-80S	1台	日本無線
無線方位測定機 TD-C338MK11	1台	太洋無線
船舶電話	1台	日本船舶通信

航海・機関設備

●操舵室



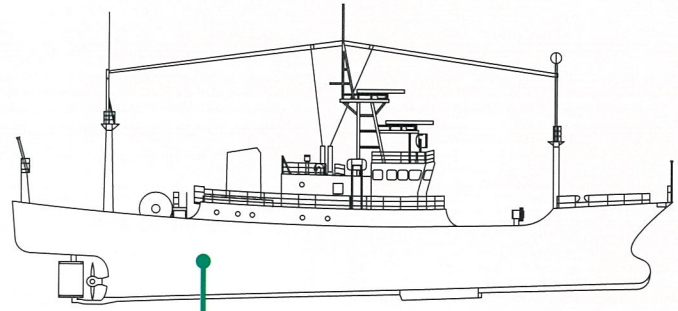
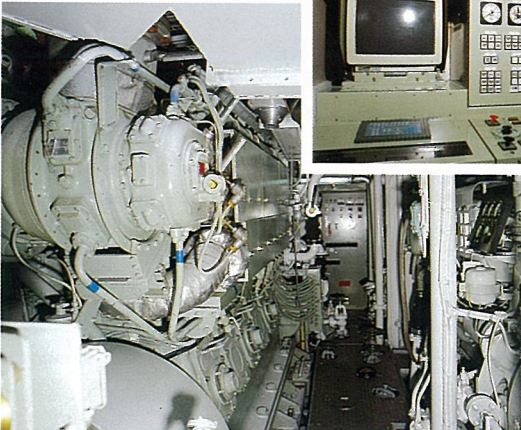
●無線室



●機関監視室



●機関室



観測・漁労調査設備

●CTDウインチ



アーマードケーブル 6.4mm φ × 2000m

●バイオテレメトリー

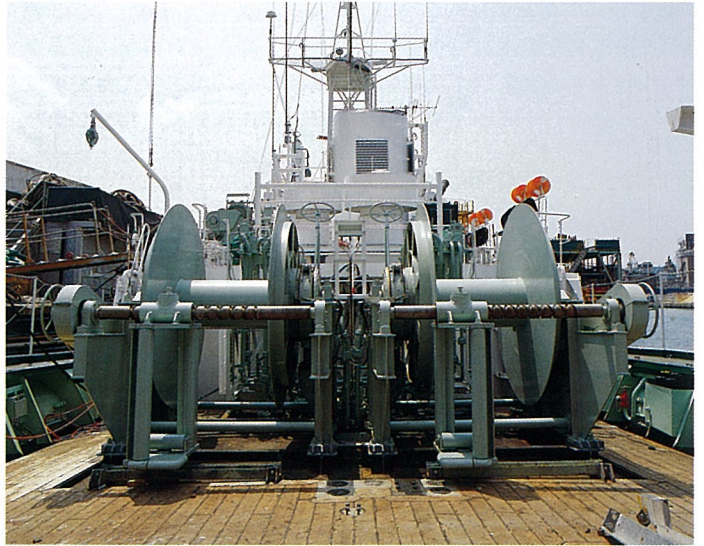


●ドライ調査室



CTD、計量魚群探知機等を操作するとともに、パソコンによる各種データ処理を行う

●底曳ウインチ



3t × 100m/min

●超音波流向流速計送受波器



150kHz

●漁網監視装置受信器



水深、網高、袖網センサー付き

●ソナー



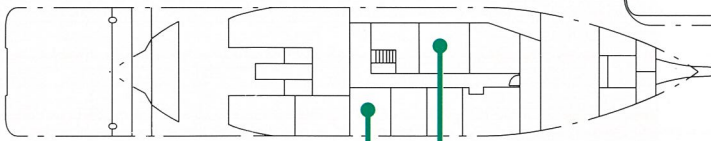
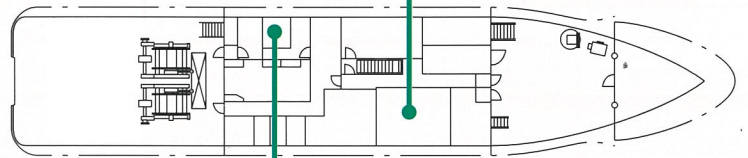
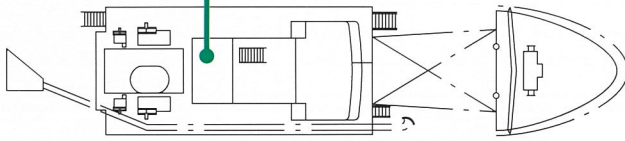
50, 200kHz

居住設備

● 船長室



● 食堂



● 機関長室



● 船員室



● 風呂



白山丸の沿革

初代白山丸 89.16T. 200PS

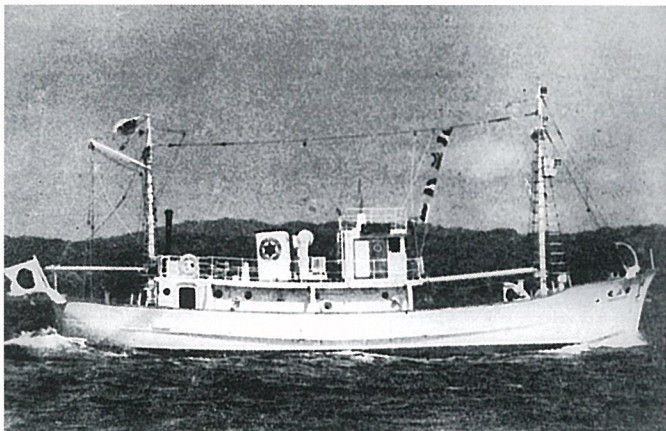
昭和3年3月 三菱、長崎造船所



大正末期から昭和初期にかけ、機船漁業の気運が高まり漁場の拡大開発が望まれ、北鮮海域にて、さば巾着網、いわし刺網、すけそう縄による漁場調査、北海道、三陸沖合の鮪延縄の調査、沿海州海域の底曳漁場開発調査等遠洋、出稼的漁業の発展のため開拓、先駆的役割を充分にはたしたが、昭和18年、海軍に徴用され、昭和19年6月西部ニューギニア、マノクワリ島にて被爆、その雄姿を南海の落陽と共に没し去った。

第2代白山丸 62.64T. 160PS

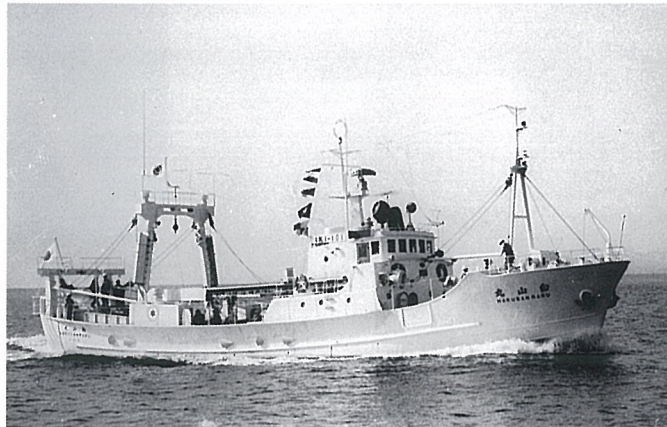
昭和25年8月 東日本重工K.K. (三菱) 七尾造船所



戦後、日本海における総合的資源調査、対馬暖流開発調査に参加、現在の海況、漁況予報システムの基礎を確立した。また、白山瀬、大和堆、佐渡北方礁等沖合漁場の開発に貢献し、沖合するめいか漁業、日本海ます漁業、さんま漁業等の調査を行い、今日の沖合漁業の基礎を固め、昭和42年その任務を完了した。

第3代白山丸 119.40T. 500PS

昭和42年2月 檜崎造船K.K.



スターン型漁業調査船としては、日本で初めての建造でありその後の調査船建造のモデルとなった。日本海総合開発調査に参加し、1000m台の深海漁場開発を行ない、深海部における漁業資源の分布状況を明らかにした。また、日本海ます漁業、さんま漁業、するめいか漁業の漁場形成および資源調査を行い、県内漁船の漁場誘導を積極的に実施し、生産向上に貢献し、昭和53年7月その任務を完了した。

第4代白山丸 189.52T. 1,300PS

昭和53年7月 三菱重工業(株) 下関造船所



200海里漁業水域の定着により、計画性の高い、経費節減型の漁業が不可欠となり、日本海各県との共同による日本海するめいかおよび日本海ます資源調査に参加し、漁況予報、形成漁場の評価を行い、**優良漁場への誘導を図った。**また、底曳網漁業の重要魚種であるスワイガニ、ホッコクアカエビ、アカガレイなどの資源診断と適正漁獲方法の検証など資源管理型漁業への転換の提起に大きく寄与した。



石川県水産総合センター

〒927-04 石川県鳳至郡能都町字出津新港三丁目7番地1号
電話 0768-62-1324 F A X 0768-62-4324